

科学技術外交の強化に向けて(案)

平成20年5月19日

総合科学技術会議

科学技術外交の展開

- TICADIV (5月28～30日、横浜)
- G8科学技術大臣会合 (6月15日、沖縄)
- 北海道洞爺湖サミット (7月7～9日、洞爺湖)
- アジア地域科学技術閣僚会合 (7月8日、マニラ)
- 日アフリカ科学技術大臣会合
(今秋、開催日・開催地は調整中)

科学技術外交推進の基本的方針

- ① 相互に受益するシステム
- ② 科学技術と外交の相乗効果
- ③ 「人」づくりの重視
- ④ 国際的なプレゼンスの強化

取り組むべき施策

43項目の取組み

(1) 開発途上国との協力

- アフリカとの共同研究プログラムの創設
 - 我が国の科学技術の蓄積をアフリカの将来の発展に生かす
 - 現地の大学等に我が国の研究者を派遣し、共同研究を実施
- 地球規模課題対応国際科学技術協力
 - 環境、エネルギー、防災、感染症対策等の分野
 - ODAにより共同研究を実施、開発途上国の大学等の能力向上
- 開発途上国の人材開発
 - 我が国の研究者を科学技術研究員として派遣
 - 世界の環境リーダーを我が国で育成
 - 高等教育機関の設置・運営を支援

取り組むべき施策

(2) 先端科学技術を活用した協力

- 革新的な環境・エネルギー技術開発の推進
 - 優れた環境エネルギー技術を国際社会に展開
 - 各国の技術を結集して国際共同研究を推進
- 全球地球観測システム(GEOSS)の構築
 - 地球観測・予測で主導的な役割を果たす

(3) 首脳や閣僚による諸外国との対話

- 諸外国との政策対話の充実・強化
 - 日アフリカ科学技術大臣会合やアジア地域科学技術閣僚会合の開催等、首脳や閣僚による科学技術に関する政策対話を実施

➡ 更なるプログラムを強化。